



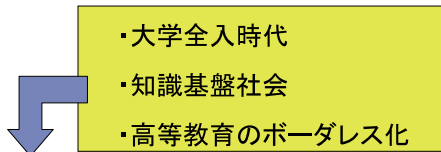
成績評価方法の共通指針
— その背景と実際 —

成績評価の共通指針

— ブラック・ボックスからの脱却に向けて —



岩手大学 評価室
大川一毅



- ・高等教育(機関)の個性や特色の明確化・機能分化
- ・個性・特色の明確化を通じた教育・研究の質の向上
- ・高等教育の質の保証 (学習者保護と国際的通用性保持に向けた「大学評価」)



大学の質保証に関わる新たなシステムの構築

大学の個性化・多様化に向けた「大学設置基準」の緩和
大学の質保証に向けた大学機関別認証評価の義務化

大学教育における「成績評価」のあり方は、
「質保証」という動向の中での重要課題



5-3 成績評価や単位認定、卒業認定が適切であり、有効なものとなっていること。

- ① 教育の目的に応じた成績評価基準や卒業認定基準が組織として策定され、学生に周知されているか。
- ② 成績評価基準や卒業認定基準に従って、成績評価、単位認定、卒業認定が適切に実施されているか。
- ③ 成績評価等の正確さを担保するための措置が講じられているか。

★大学院課程にも同様の基準あり



6-1 教育の目的において意図している、学生が身に付ける学力、資質・能力や養成しようとする人材像等に照らして、教育の成果や効果が上がっていること。

- ① 大学として、その目的に沿った形で、教養教育、専門教育等において、課程に応じて、学生が身に付ける学力、資質・能力や養成しようとする人材像等についての方針が明らかにされており、その達成状況を検証・評価するための適切な取組が行われているか。



平成19年7月31日公布、平成20年4月1日から施行

(成績評価基準等の明示等)

第二十五条の二

大学は、学生に対して、授業の方法及び内容並びに一年間の授業の計画をあらかじめ明示するものとする。

- 2 大学は、学修の成果に係る評価及び卒業の認定に当たっては、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準にしたがって適切に行うものとする。



試験前に、学生がつぶやいた。

「大学の成績評価はブラック・ボックスですね」

ブラック・ボックス

- ・「機能はわかっているが構造のわからない装置」
- ・「入力と出力だけを問題とし、内部構造を問わない、あるいは構造が未知の構成要素をいう」

大学の成績評価は、教員間でも

お互いの手の内を知らぬ「ブラック・ボックス」だった。



生徒・学生の学習進捗状況や教育活動の成果(価値)を、
教育目的や教育のニーズと照らし合わせながら判定すること。

教育現場のあらゆる場面で、多様な方法によって実施。

その結果をもとに教師は自らの教育実践を振り返り、改善する。

生徒・学生は、提示された教育評価を踏まえ
自己の学習状況を自覚し、これからの学習指標を形成する。

こうした教育評価の積み重ねが成績評価につながる。



成績評価に関する学生の意識調査

Uwate University
首都大学

選択回答式で成績評価に関する学生の意識を調査

首都圏の私立大学6大学(のべ12学部), 1短大(2学科)
教職課程科目を履修する2年生から4年生までの227名を対象

↓

大学や学部の特性, 規模, 入学難易度が違うにもかかわらず
回答傾向は近似していた。

★ 成績評価の現状と課題についての学生の共通意識が示される。

2008.2.22 首都大学東京「第6回 FDセミナー」 9

成績評価をめぐる学生の意識

Uwate University
首都大学

- 大学の授業でよい成績をとろうと授業に参加している。 57%
- 成績評価が授業参加の動機付けや努力目標になっている。 44%
- 成績評価がその後の学習意欲を高めた経験がある。 58%
- 成績評価がその後の学習意欲を減退させた経験がある。 42%

★ 成績評価が, 学生の学習意欲や動機付けに影響を与えている。
しかし
「意識はしていますが, 信頼はしていません。」

2008.2.22 首都大学東京「第6回 FDセミナー」 10

大学における成績評価の信頼度は?

Uwate University
首都大学

大学の成績評価は客観性や妥当性の面で信頼できる
肯定 8% 否定 58%

大学の成績評価は自己の学習成果や努力を適性に評価している
肯定 22% 否定 40%

一般的にみて大学の成績評価は今のままでよい
肯定 21% 否定 40%

ただし, 「否定」回答の比率は講義科目に高く,
「肯定」回答の比率は演習, 実験, 実技系科目で高い。

2008.2.22 首都大学東京「第6回 FDセミナー」 11

成績評価にあたっての基準

Uwate University
首都大学

成績評価にあたっての基準は明確である
肯定 9% 否定 66%

自由記述

- 「教員によって成績評価の基準が違いすぎる」
- 「学生に求める学習到達目標が不明瞭である」
- 「成績評価がたった一回の試験で決定される」
- 「試験の出題が授業の内容と一致していない」
- 「授業の参加度や学習意欲, または学習(授業)によって
学生がどのくらい進歩したかが無視されている」

2008.2.22 首都大学東京「第6回 FDセミナー」 12

成績評価はもっと厳格にすべきだ!?

Uwate University
首都大学

学生は『甘い』成績評価を無条件で歓迎しているわけでもない。

「成績評価はもっと厳格にすべきだ」
賛成 21% 反対 24%

「どちらともいえない」 47%

自由記述
成績評価にあって, 自己の学力や努力を正当に評価し,
その方法や評価基準が妥当と判断できれば『納得』できる。

2008.2.22 首都大学東京「第6回 FDセミナー」 13

成績評価の手段として学生が期待するもの

Uwate University
首都大学

(回答277名中の回答比率: 複数回答)

出席状況	74%	最終試験(レポート)	66%
授業参加状況	56%	課題の提出	44%
小テスト	21%	予習復習	12%

学生は, 教員が一般的に実施している評価方法を回答。
実際に教員が採用している状況をふまえ, それに学生が
納得できるものを回答している。

これら成績評価を手段を教員が
適切, 効果的に採用・実施しているか, していないかが問題。

2008.2.22 首都大学東京「第6回 FDセミナー」 14

成績評価実施方法への希望

Uwate University
首都大学

「成績評価は最終試験(もしくはレポート)のみで行われた方がよい」
肯定 11% 否定 57%

「成績評価にはもっと様々な要素を織り込んだ方がよい」 肯定 56%

「授業期間中, 受講者の学習到達度が把握できるような機会・配慮
が必要(テスト, レポート課題等の返却も含む)」 肯定 47%

「提出したテストやレポート・課題は, 採点の上,
コメントを付して返却してほしい」 肯定 80%

2008.2.22 首都大学東京「第6回 FDセミナー」 15

課題や小テストの返却について(自由記述)

Uwate University
首都大学

「一度きりの最終テストやレポートはまるでのれんに腕押し。
どこがよかったのやら, 悪かったのやら。忘れた頃に成績評価。
そこで何を感じても, すでに授業は終了。」

「成績評価を最終テスト一回で判定するのは,
結局のところ, 教員が『楽』だから?」

★ 学生は, 授業での「労苦」をすべて忌避しているわけではない。
「授業と成績評価が結びついていない」という学生からの指摘は,
教員の教育姿勢・努力への批判か?

2008.2.22 首都大学東京「第6回 FDセミナー」 16

成績評価方法の伝達・周知

成績評価に対する不満には、
成績評価の方法や基準の情報が十分提示されていないこともある。

「成績評価の方法について教員から情報提示されている」
肯定 27% 否定 38%

★ 授業で「何をどこまで学べばよいのか」が学生にとって不明瞭。

「どのような力」を「何によって評価」するのか。
「何をどこまで身につければよいのか」



授業目的の明確化

成績評価についての重大な問題点の1つ

★ 学生が、その授業の目的や目標を明確に把握できていない。

授業目標が明確化されなければ、

学生は学習到達指標も得ることができない。

授業の目標が明確であれば、学生の成績判定の基準も明確化され、
そのための方法の妥当性も判断できる。

授業目標は、学生がこれを把握し、学習の指標となるのが肝要。



シラバスの記載

シラバスは単なる授業紹介ではなく、

- その授業で何を学習するのか(何ができるようになるのか)
- その教育方法・形態はいかなるものか
(何をどうやって学ぶのか、何をしなければならぬのか)
- 学習の結果をどのように評価するのか
(学習の成果をどのような基準と方法で判断するのか)
を示したもの。

「シラバスの成績評価欄に提示されている情報は十分である」
肯定 11% 否定 58%

「十分満足」は回答者277名中2名のみだった。



学生がシラバスに求めた成績評価情報

評価手段	75%	到達水準	51%
評価手段の評点比率	47%	出席回数	42%
その他	4%		

学生たちは「到達水準」の記載を要求。

この授業において「何をどこまで学べばよいのか、
学習によっていかなる『発達』を示せばよいのか
そのことが学生にとって知りたいことであり、
それがまた学習の目的ともなる。



認証評価におけるシラバスに関する基準

基準5 教育内容及び方法

5-2-2 (学士課程)

教育課程の編成の趣旨に沿って適切なシラバスが作成され、活用されているか。

5-5-2 (大学院課程)

教育課程の編成の趣旨に沿って適切なシラバスが作成され、活用されているか。



シラバスの記載をふまえた検証事例

教養科目授業のシラバスの記載もとに

①「授業個々がどのような「到達目標」を提示しているのか。」

この検証をふまえて、教養教育成果検証及び成績評価のための指標策定を試みる。

シラバスに記載される「到達目標」から「公約数的要素」が抽出できれば、それは教育成果検証の重要な指標となるのでは？

さらに、各授業では

②「成績評価にどのような方法をとっているのか。」

を確認。



シラバスに記載された項目

教養教育授業科目

- | | | | |
|--------------------|--------------------|---------|---------|
| ① 授業科目名 | ② 時間割 | ③ 科目コード | ④ 単位時間数 |
| ⑤ 開設学期等 | ⑥ 受講対象学生 | ⑦ 必修・選択 | ⑧ 授業の形式 |
| ⑨ 備考 | ⑩ 履修する際に前提とする授業科目名 | | |
| ⑪ 内容的に密接に関係する授業科目名 | ⑫ 担当教員名・所属 | | |
| ⑬ 学内室番号・電話番号 | ⑭ オフィスアワー | | |
| ⑮ 授業の目的及び到達目標 | ⑯ カリキュラム上の位置づけ | | |
| ⑰ 授業の概要と進行予定及び進め方 | ⑱ 授業に関連するキーワード | | |
| ⑲ 成績評価の方法及び合否判定基準 | ⑳ 教科書・参考書等 | | |



「授業目的」と「到達目的」

「授業の目的」

該当授業の教育・学習目的が明示されるとともに、その授業の教育課程における位置や役割を明らかにする。

「GIO: General Instructional Objective (一般教育目標)」

「到達目標」

授業での一連の教育・学習活動の結果として学生が習得していることを期待する(あるいは習得可能と想定される)知識、技能、意識・意欲、学習スキル、言語能力、発表能力、問題解決能力などの水準を具体的に示す。

「SBOs: Specific Behavioral Objectives (行動目標)」



「到達目標」に示された資質・能力・スキル

Uwate University
岩手大学

「知識・理解」

「技能・表現」

「学習スキル」

「関心・意欲・態度」

「問題解決・課題対応能力」

「外国語運用能力」

これら資質・能力を
まとめて
近頃では
「学士力」
と言うこともある。

2008.2.22 首都大学東京「第6回 FDセミナー」 25

授業科目からみた「到達目標」

Uwate University
岩手大学

「初年次ゼミ」・・・「知識・理解」(94%) 「関心・意欲・態度」(45%)
「学習スキル」(50%)

「目的主題別科目」・・・「知識・理解」(94%)

「国際言語科目」・・・「外国語運用能力」(99%) 「知識・理解」(98%)
「技能・表現」(89%)

「スポーツ科目」・・・「知識・理解」(100%) 「技能・表現」(89%)
「関心・意欲・態度」(69%)

2008.2.22 首都大学東京「第6回 FDセミナー」 26

授業形式からみた「到達目標」

Uwate University
岩手大学

「講義」形式・・・「知識・理解」(96%) 「関心・意欲・態度」(45%)

「演習」形式授業・・・「知識・理解」(80%)
国際言語科目94授業を含む 「技能・表現」(76%)

「学生参加型」授業・・・「知識・理解」(89%)
「技能・表現」(77%)
「関心・意欲・態度」(54%)
「学習スキルの習得」(51%)
「問題解決・課題育成能力」(38%)

2008.2.22 首都大学東京「第6回 FDセミナー」 27

授業科目からみた成績評価方法

Uwate University
岩手大学

「初年次ゼミ」・・・「平常点(81%)」、「出席(75%)」、「最終レポート(50%)」、
「宿題・作品・課題(38%)」、「発表(31%)」
「授業時・授業後の作文(31%)」
★「最終試験」の採用比率は皆無(0%)。

「目的主題別科目」・・・「出席(65%)」、「平常点(42%)」、
「定期試験(39%)」、「最終レポート(33%)」

「国際言語科目」・・・「定期試験(89%)」、「出席状況(82%)」、「平常点(78%)」、
「小テスト(74%)」、「宿題・作品・課題(54%)」

「スポーツ科学」科目・・・「出席(100%)」、「小テスト(スキルテスト)(66%)」、
「平常点(74%)」

2008.2.22 首都大学東京「第6回 FDセミナー」 28

授業形式別に見た成績評価方法

Uwate University
岩手大学

「講義」形式・・・「出席(70%)」、「定期試験(58%)」、「小テスト(50%)」
「平常点(30%)」

「演習」形式(国際言語科目が中心)・・・「出席(80%)」、「平常点(80%)」
「定期試験(76%)」、「小テスト(65%)」
「宿題、作品、課題(53%)」

「学生参加型」形式・・・「出席(72%)」、「平常点(73%)」、「定期試験(41%)」
「発表(37%)」、「最終レポート(31%)」、
「小テスト(31%)」、「宿題、作品、課題(23%)」

「実技」形式(スポーツ科目が中心)・・・「出席(100%)」、「平常点(78%)」
「小テスト(72%)」

2008.2.22 首都大学東京「第6回 FDセミナー」 29

成績評価指標としての「出席状況」

Uwate University
岩手大学

成績評価手段として最も多く採用されているのは「出席」。
教養教育授業科目全体の76%(シラバス表記)。

「単位の実質化」の考え方からすれば、
「単位」は授業参加と事前事後の学習遂行が前提。

「出席」を成績評価の共通指標として用いることは
授業における学生参加機会の増加、授業外学習指示の工夫、
シラバスの活用、オフィス・アワーの活性化等に継続されるかも。。

↓

そのことは「授業の質的向上」となり、大学評価活動における「単位の実質化」や「シラバスの整備・活用状況」の立証指標にもなるか。。

2008.2.22 首都大学東京「第6回 FDセミナー」 30

よりよい大学教育実践に向けた成績評価

Uwate University
岩手大学

ー「ブラック・ボックス」からの脱却へ

- ・授業は学生のため。成績評価も学生のための教育活動の一環。
- ・成績評価の内容や方法、基準を明確化し、これを学生に伝えることは、
授業目的を明確化させることでもある。
- ・成績評価のための授業での様々な取り組みは、教育・学習目的に沿って
授業のあり方や学生の学習状況を不断に検証することにつながる。
- ・これらいとなみが、成績評価のみならず
授業そのものを「ブラック・ボックス」から脱却させる手だてとなる。

成績評価は、授業そのものと一体である。

よりよい授業のためには、成績評価に向けた努力も惜しまないでください。

学生はそれを期待しています。

2008.2.22 首都大学東京「第6回 FDセミナー」 31

首都大学東京「第6回 FDセミナー」

成績評価の共通指針

ー ブラック・ボックスからの脱却に向けて ー

ありがとうございました。

岩手大学 大川一毅

2008.2.22 首都大学東京「第6回 FDセミナー」 32